

みんなの広場



野菜スタンプのエコパ
ツグづくり体験

コミカルな演技で食の大切さを伝える
市食生活改善推進協議会

2.25

食のまちづくりフォーラム 食を通して心を豊かに

伊万里公民館で食のまちづくりフォーラムがありました。伊万里農林高校の生徒や市食生活改善推進協議会（大坪地区）、『ゲストハウス Ne doco?』オーナーの黒川みさとさんによる食に関する事例・研究発表のほか、味わい物産展や健康コーナー、食育体験コーナーなど多彩な催しが行われ、家族連れなど多くの来場者でにぎわいました。



1日にどのくらいの量の野菜を食べれば
いいかわかるかな

ゲストハウスを始めた
理由を話す黒川さん



歯の健康も大切です

食に関する絵本の読み聞かせ

親子でおはぎづくり体験

古伊万里ライオンズクラブが絵本を寄贈 心を育むすてきな贈り物

古伊万里ライオンズクラブが、市民図書館に絵本 84 冊と市民図書館のスローガンが記された木製の看板を寄贈しました。クラブは、平成 25 年 2 月、館内のイスノキコーナーに『いまりっ子文庫』を開設して以来、毎年絵本を寄贈しています。池田忠夫会長は、「子どもたちに図書館と本を好きになってたくさん読んでもらいたい」と話していました。



2.20

↑『いまりっ子文庫』は開設5年で 400 冊以上になりました

山代緑の少年団と市ソフトボール協会が緑化活動 地域を緑でいっぱい

地域の緑化活動に取り組む山代緑の少年団が、市ソフトボール協会と協力し伊万里湾大橋球技場周辺にソメイヨシノ 5 本とサツキ 70 本の苗木を植えました。少年団には山代西小学校の小学生 9 人が所属。球技場への植樹は今年で 6 回目です。松永孝三団長は「将来、自分の植えた樹の成長を見て子どもたちが感動してくれたら」と話していました。



2.18

↑立派な樹に成長するようお願いしながら丁寧に植栽

第16回西九州伊万里凧あげ大会

自慢の手作り凧を大空に

西九州伊万里凧あげ大会がイマリンビーチであり、市内外から多くの団体や家族連れなどが参加しました。自作の凧を自分で操作することが出場の条件。会場では、製作に何日もかかったであろう大きなものや、同日開かれた凧づくり教室で作った可愛いものなど、多彩な凧が青空を舞い、デザインや上空での安定性を競いました。



いろいろな形状や絵柄の凧がビーチ上空を飛び交いました



3.11

↑ 凧を上げる前にデザインなどの審査を受ける参加者。外国からの参加もありました

伊万里・有田地区歯科医師会が小学校6年生に歯ブラシ贈呈 中学生になっても歯を大切に

伊万里・有田地区歯科医師会が、市内の小学校6年生全員にと歯ブラシ 500 本を市に寄付しました。虫歯の本数は中学校2年生から増加する傾向にあります。中学生になっても口の健康を維持してほしいとの思いを込めたもので、下田昭則^{あきのり}顧問は、「夜寝る前と朝の歯磨きは特に大切。こまめに歯を磨く習慣を身に付けてほしい」と話しました。



3.2

↑ 下田顧問（右から2番目）と会員の皆さん

多文化防災ロールプレイ

誰もが安心して生活するために

立花公民館で『多文化防災ロールプレイ』がありました。これは、外国人の住民が増加し、さまざまな文化の人が生活するなか、災害時に想定される問題点やその対応などについて考えようと、市国際交流協会などが開催したものです。鹿児島市国際交流財団の柚木美穂さんの講演のほか、パネルディスカッションやワークショップが行われました。



2.25

「外国人への対応を考えてもらうために、防災訓練への参加などで存在を意識してもらうことが必要」と話す柚木さん



↑ ワークショップでは避難所で外国人が不安に思うことや解決策などを話し合い、発表

市高齢者見守りネットワーク事業発足式 見逃しません、わずかな異変

市高齢者見守りネットワーク事業の発足式が市役所でありました。これは、事業者が普段の業務を行う中で、高齢者宅の新聞がたまっているなどの異変に気付いたときに、市への連絡をお願いするもので、43の事業所が賛同して発足しました。市の担当者から事業内容の説明を受けた協力事業者は、改めて事業の趣旨を確認しました。



2.21

↑ 発足式に出席した協力事業所の代表ら関係者